

オーガナイズドセッション プログラム 3月26日(火)

OS-A 生態系の素過程から広域環境応答の評価・予測へつなげるデータ、モデルのスケーリング
 オーガナイザー: 横沢正幸・飯泉仁之直・櫻井 玄(農環研)
 3月26日13:00-15:30 A会場

OS-A1	Reducing model uncertainty in wheat yield simulation by data assimilation and updated climate information.	○Kiyoshi Honda (Chubu U.), Amor V.M. Ines (Columbia U.), Akihiro Yui (IHI Corp.)
OS-A2	作物生育パラメータのグリッドサイズ依存性	田中有紀子(筑波大)・○飯泉仁之直(農環研)
OS-A3	収量統計データを用いた作物モデルのアップスケールーアメリカ、ブラジル、中国を例としてー	櫻井 玄・飯泉仁之直・横沢正幸(農環研)
OS-A4	全球大気ー作物結合モデルの開発	増富祐司(埼玉県環境科学国際セ)
OS-A5	渦相関法で観測されたフラックスデータの時間平均手法の提案	○金元植(農環研)・横沢正幸(農環研)・小森大輔(東大)・徐炯鎬(韓国・温農研)
OS-A6	広域スケールの収支を推定するには何カ所の局所スケール観測が必要か? ー数値実験に基づく検討ー	伊藤昭彦(国環研)

OS-B 「温暖化フォーラム」温暖化適応策と農業現場での適応行動
 オーガナイザー: 広田知良(北海道農研)
 3月26日(火)15:45-18:15 A会場

OS-B1	長野県における気候変動適応策導入の試みー適応策の政策実装と農業分野の先行的取り組みー	○田中博春・陸齊・浜田崇・畑中健一郎・小澤ゆきえ(長野県環境保全研)
OS-B2	果樹農家は気候変化にどう適応してきたか: 長野と秋田での事例研究から	○小林和彦(東大)・藤沢茉莉子(東大・ケープタウン大)
OS-B3	農業分野における気候変動適応策の実装化に向けたアクター間のフレーミングギャップ分析	馬場健司(法政大)

OS-C 地表面の改変が農耕地フラックスに及ぼす影響の評価とモデル化
 オーガナイザー: JapanFlux(小野圭介・宮田明・間野正美)
 3月26日(火)15:45-18:15 B会場

OS-C1	水田における空気力学的粗度長の季節変化~特に非作付期間に着目して~	石田祐宣(弘前大)
OS-C2	草地更新に伴う地表面の改変が草地CO2フラックスに及ぼす短期的な影響	松浦庄司(畜草研)
OS-C3	表面から土壌の内部を観察するー二酸化炭素発生量の垂直プロファイルの推定ー	櫻井玄(農環研)
OS-C4	野焼きは単作田の炭素収支にどう影響するか?	岩田徹(岡山大)
OS-C5	土地利用変化および圃場管理が農耕地からの温室効果ガスフラックスにおよぼす影響	永田 修(北農研)
OS-C6	地表面の物理的特性の変化が水田の炭素・窒素動態に及ぼす影響	小野圭介(農環研)